戦場から逃げる者たち

出川 戦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
戦場から逃げる者たち

【Ｎコード】
Ｎ０５０１ＢＡ

【作者名】
出川　戦

【あらすじ】
ラグナイト資源を求めた帝国が、平和条約を破棄して三度目となるガリア方面への進軍。後に第三次ヨーロッパ大戦と称される大規模な戦争が勃発した。
それに対しガリアは帝国に徹底交戦の姿勢を表明。さらにガリア側には連邦が軍隊を派遣し、戦力はガリア・連邦側が優勢と見られた。
だが帝国は、過去のガリア戦役での敗北より、当時のおよそ3倍

もの兵力を蓄えていた。
それゆえに戦力は拮抗し、泥沼化する戦争。

そしてある日を境に、ヨーロッパをはじめとする世界各国でラグナイトの発掘が滞り始めた。
ラグナイトを発掘できる鉱山は限られ、その僅かな資源を全て軍備に使う事で戦火はさらに広がった。

これは、激化する戦場から逃れるために闘う少年と少女の物語である。

第1話

ガリア戦役から約５０年・・・・・半世紀が経った、征暦１９８２年。

帝国と連邦による第二次ヨーロッパ大戦は、３０年前に結ばれた停戦協定により過去のものとなっていた。

だが帝国はまたも、休戦条約を破棄してガリアに宣戦布告を表明した。

それに対しガリアも徹底交戦の意志を示し、第三次ヨーロッパ大戦の引金となる第二次ガリア戦役が勃発。

今回はガリア側に連邦軍が増援として戦線に参加し連合軍を結成した事により、帝国の劣勢が囁かれた。

だがしかし、帝国はこの数十年の間に軍備を拡張し、５０年前当時のおよそ3倍の兵力を蓄えていた。

それにより戦力は拮抗し、戦争は泥沼化。

連邦の加勢により、ガリアは義勇軍の戦闘参加を個人の意志のみで判断していたが、戦争終結のために５０年前のように強制とする動きが軍上層部で見られていた。

――――――そして、同年１１月１４日。その日を境にヨーロッパをはじめとする世界各国でラグナイト資源の採掘が滞り始めた。

ラグナイトを産出できる鉱山は限られ、さらに帝国、ガリア・連邦双方は残されたラグナイトを、必要最低限を残して全て軍備に使う事で戦争の早期終結を狙った。しかしその結果として、戦争はさらに激化した。

そんな中、戦地から離れたファウゼン市の南西にある小さな村――――リース村に住む少年、レイ・ジーニアスは、リース村の近くにある山のふもとの畑で自給自足の生活を営んでいた。

レイは今、リース村で一人暮らしをしている。彼の父親は6年前に病死し、士官だった母親は帝国との戦争に赴いて先月戦死した。

だが彼はそんな今の生活を、苦とも何とも思いはしなかった。今までも似たような生活だったし、母親が死んでしまった事も『国のために死んだ』と自分に言い聞かせることで乗り越えた。

レイはいつものように、今日食べるだけの量のジャガイモなどをかごに入れ、家に戻ろうとした。

そんな時、急に地震が起こった。

「うわっ！！？」
レイは跪き、揺れが収まるのを待った。

そして少しすると、大地は落ち着いた。レイもゆっくりと立ち上がり、山を見る。

「・・・・よかった。山崩れは無いみたいだ」
もし山崩れが起こったら、畑は埋もれ、ここにいるレイ自身も危ない。すぐにその事を確認したレイは、頭の回転が良い人間なのだろう。

レイはかごを担ぎ直し、今度こそ家に帰ろうとした時、目の前の山の中腹から、青白い光が見えた。

「なんだ、あれは・・・・・」
レイは興味本位で山の中腹に登りに行った。

レイが登った山は、彼の先祖から引き継がれた全く開発されていない山だ。伝承によると、その山は地殻変動で大地が隆起してできた山だそうだ。

レイはさっきの地震でできたと思われる山の亀裂から、ふもとで見えた青白い光は出ていることを発見した。

――――――その光源は、ラグナイト鋼だった。

今現在、ラグナイトは少量でもかなり高価で取引される。
レイはこのラグナイト鋼を持って安全な国に逃れ、そこで売って資金にしようと思い至った。

彼は、戦争が嫌いだ。それは当たり前なのかもしれないが、彼の戦争嫌いは普通の人よりも抜きん出ていると言える。

だからこんな危ない、いつ戦争に駆り出されるかもしれない国から、彼は1秒でも早く逃げ出したかった。

だからこのラグナイトの発見は、神からの贈り物だと思った。

だが残念な事に、今の彼の装備ではこの目の前の宝を採る事は叶わなかった。

なので、後日採りに来ようと亀裂を土と落ち葉で隠し、近くの木に布をくくりつけ、目印とした。

今日行くのは周囲の村人にバレる恐れがある――――――そう考えたレイは、明日かごの中に採掘道具を隠し持って行けば問題無いと考えた。

なので、レイは今日はもう帰ろうとした。

その帰り道の事。

「・・・・ん？」

山から下りて村に帰ろうとしていたレイは、倒れている人間を見つけた。

駆け寄ってみると、倒れていたのは自分と同じくらいの年頃の少女だった。

「・・・・・・・ほっとくわけにも、いかないよな」

そう言ってレイは少女を背負って村に戻った。

翌朝

「ん・・・・・・」
倒れていた少女は、リース村のレイの家で目覚めた。
今はまだ1月の半ば。外から入ってくる眩しいほどの太陽光に当てられ、少女は目が覚めたのだろう。

「目が覚めたか。これでも食べて体力をつけろ」
そう言ってレイはバターを乗せた蒸かしジャガイモと牛乳を少女に差し出した。

「・・・・ここは？」
少女の声には力が無かった。

「俺の家だ。場所はリース村という小さな村で、昨日村の近くで君が倒れていたから、俺が保護した」
レイは少女に経緯を説明した。

「・・・・・ッ！！？」
だが、レイの説明を聞いた途端に少女は食べていたジャガイモを放り捨て、血相を変えて家の外へ走り出した。

「お、オイッ！」
レイは少女を追って、鍵すら掛けずに家を跳び出した。

少女を追って昨日彼女を見つけた方とは逆の位置にある小高い丘で、レイは少女に追い付いた。

少女は目に見えるほど衰弱している。そんな彼女に小学校から高等学校卒業までの１２年間も軍事訓練を受けていたレイが追い付くのは簡単な事だった。

「なんで急に逃げたりする！別に俺は、君に危害を加えた覚えはないぞ！」
レイは少女の肩を掴み、正面からその瞳を見据えた。

――――――その瞳は、涙でいっぱいだった。

「・・・・お願い！今すぐに私から離れて！でないと・・・・あなたの村が――――！」

――――――ドゴォォォォンッ！！

少女が言い終える前に、レイの背中の方から爆音が轟いた。
慌ててレイは振り返ると、その視線の先には黒い煙が立ち上ってい

た。

・・・・・その方向は彼の故郷、リース村の方角だった。

「うそ、だろ・・・・！？」

レイは衝動的に村に戻ろうとした。だが少女が彼の腰を抱くようにして行くのを止める。

「離してくれ！あそこは俺の故郷なんだ！」

「ダメ！もう間に合わない――――！」

少女の言葉を肯定するように、またも爆音がレイの耳に響いた。

「・・・・・そんな・・・」

レイはその場に崩れ落ちた。その頬に一筋の線を光らせながら。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0501ba/

戦場から逃げる者たち

2012年1月1日00時56分発行